

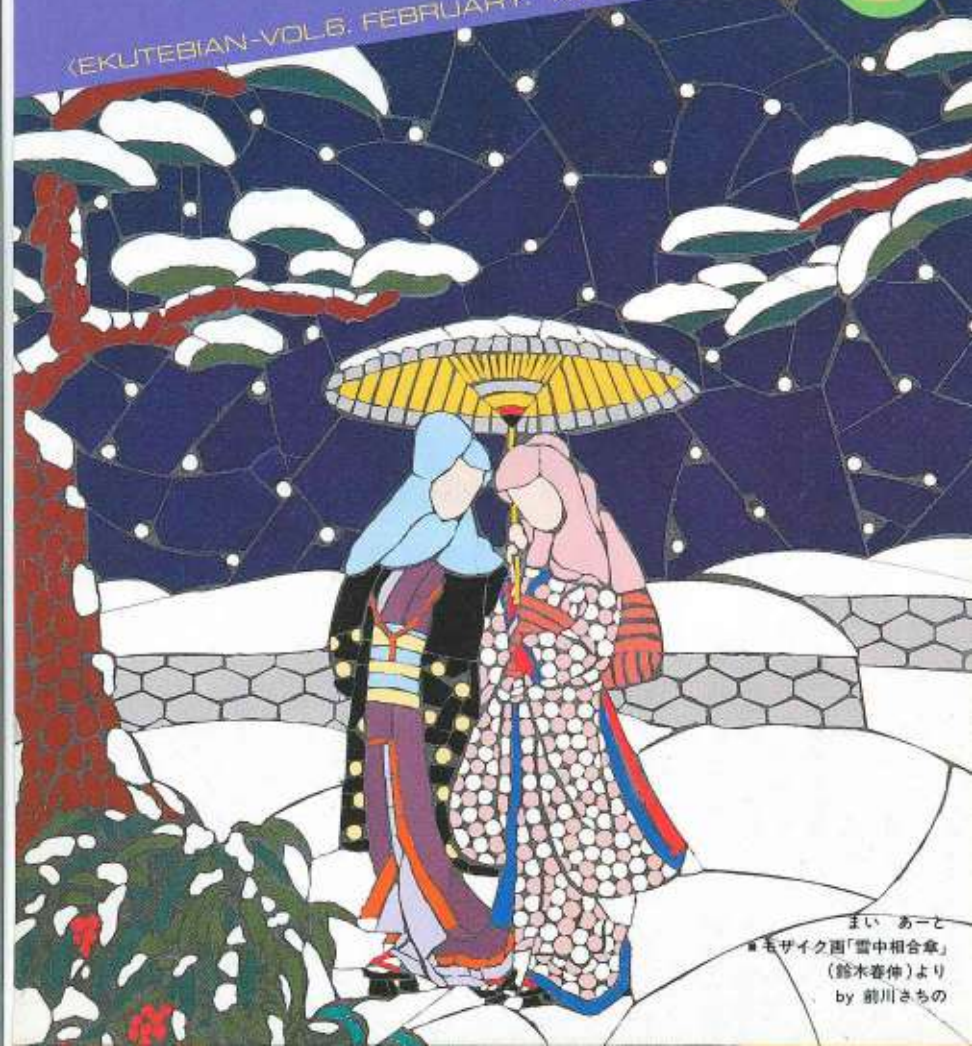
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

〈EKUTEBIAN-VOL.6. FEBRUARY. 1989-EKUTEBIAN〉

2



まい あーと
■モザイク画「雪中相合傘」
(鈴木春伸)より
by 前川さちの



昨年暮、コンサートホール「カンマーザール」ではフルートの金昌国さんを迎えてクラシックファンが一堂に集い、休憩時にはおつまみにワイン、コーヒーが供されて和気がただよう、いいムードがホールいっぱい。

大人の雰囲気ただよう「時代舎」にサ・チ・コさんが唄うシャンソンとタンゴが満ちる。オードブルをウイスキーの水割りで頂きながら、円熟味ゆたかな歌にしばし耳を傾けるのも、この店ならではの味わいである。

この街では珍しい紅茶専門店の「アルビオン」はバロックコンサートを中心に、味と音のハーモニーをよく試みる。この日はロビーでのピアノ演奏（松浦靖子さん）にファンが駆けつけた。ここには画面もあり、立川人の感性を刺激する企画が盛りだくさん。



小味のきいた小粋な音を

一流の音を、気軽に、お茶でも飲みながら聴こうという「小粋な」ひとが増えている。

「お茶」はときにウイスキーだったりワインだったりして大人のムードを醸し出しているが耳に届く音はいつも心地よい、そんなお店が立川には幾つかあって、「冬の気持ち」をあたためてくれる。

漢字テスト③7

空欄に一字挿入を試みよ。

寒 ● 千 丈
興 味 ● 津



「ベスト立川人・展'88」
盛会のうちに

多くの方々のご協力を頂き、「ベスト立川人・展」も4回目を終えることが出来ました。登場して頂いた立川人を一回目から数えますと、百人を越す素晴らしい立川人が集まりました。回を重ねるごとにこれだけ終りかと思っていました。今回は八百名からのご来場を頂き、昨年12月15日から一週間開かれた写真展を終らせて頂くことが出来誠に有難うございました。今年は何んぞん方がこられますや、今から楽しみです。



「立川はまだヤードの機能を失っていない」と、あくまでヤード廃止に反対する職員一人一人を説得、労組青年部の決起集会にも積極的に参加、若い職員の見解にも耳を傾けた。かつて昭和二十六年六月に新潟で開かれた国労第十回定期大会を機に労働運動に失望、労使が一体となってこそ国鉄の明るい未来があると、暗中模索の中に「労働屋」に徹しようとした市川氏の姿がそこにあり、各駅管理者と管理局のバックアップのもと、現場交渉につぐ現場交渉と、市川駅長は暑い夏を過ごした。そして、昭和五十五年十月計画通り立川駅貨物ヤードは廃止され、市川駅長着任当時二〇〇余名を数えた職員も一五〇余名に削減された。これが、貨物取扱駅の集約、ヤードの再編成を盛り込んだ、55・10ダイヤ改正である。明けて昭和五十六年の正月には手作りのかど松を改札口に飾った事も今となってはなつかしい。

「ようこそ、協和へ」
街角から
笑顔の「あいさつ」
いっしょにいっしょ
協和銀行

「えくてびあん」第55号
平成元年二月一日発行
発行所 えくてびあん編集工房
東京都立川市栄町2-4-11
ファインビルディング3F
電話 〇四二五〇〇〇82
編集人 立井登介
発行人 沖野嘉男
印刷所 南大出版社

ありし日の 昭和天皇を偲んで

「激動の昭和」の中心におられた昭和天皇。実は「立川」との「ふれあい」は三度にも及んでいる。ありし日の陛下を偲ぶよすがとして頂ければ――。

昭和天皇が初めて立川に行幸されたのは、今から56年前の昭和8年5月のことであった。多摩陵御参拝をなされたのも、立川駅に降りられた陸軍航空本部技術部に行幸された。当時の各新聞は「空軍25年の誇り」と題して報じた。

また、青梅市永山丘陵で行われた植樹祭や、高尾山の日影沢散策、小河内ダム、玉堂美術館、都多摩動物公園、田林業試験場、浅川実験林の桜保存林へのご視察、そして多摩御陵、多摩東陵など多摩の地に数多くの足を運ばれた。昭和記念公園の木々が大きく生い茂るにつれわれわれもまた、深く陛下を偲ぶことであろう。

※写真提供 三田鶴吉氏



和24年11月、再び立川の地を踏まれた。この折は、農業試験場への行幸であった。都下産業振興をお考えになられてのものであった。装いも天皇陛下は背広姿、皇后陛下はお着物で袴姿というお出で立ちであった。

第三五代駅長 / 市川秀雄

市川氏は立川駅長就任以前、現在の立川駅舎の青写真を作成した方でもある。当時、既に国鉄の貨物輸送は斜陽化の一途を辿る一方、小回りのきくトラック輸送に次第に市場を奪われて行つた。もし貨物輸送が落ち込むことなく、立川駅の改良が行われていたら、駅舎は現在とは趣を異にしていたであろうと市川氏は語る。立川駅改良工事(橋上駅舎化、駅ビル建設)に伴う小荷物扱業務の廃止、さらにはヤード廃止が市川駅長に課せられた使命だった。市川駅長着任当日、労組は駅長歓迎と称して駅舎をピラウ埋め尽した。それが、この先、労組との交渉が容易ではないことを充分に物語っていた。四月から五月にかけて手小荷物取扱廃止の現場交渉、労組の抗議集会受到、それが結着すると十月に予定されているヤード廃止反対を叫ぶ労組のピラ貼り、職場集会是一層強化された。



立川駅長列伝
14 中野明

「立川はまだヤードの機能を失っていない」と、あくまでヤード廃止に反対する職員一人一人を説得、労組青年部の決起集会にも積極的に参加、若い職員の見解にも耳を傾けた。かつて昭和二十六年六月に新潟で開かれた国労第十回定期大会を機に労働運動に失望、労使が一体となってこそ国鉄の明るい未来があると、暗中模索の中に「労働屋」に徹しようとした市川氏の姿がそこにあり、各駅管理者と管理局のバックアップのもと、現場交渉につぐ現場交渉と、市川駅長は暑い夏を過ごした。そして、昭和五十五年十月計画通り立川駅貨物ヤードは廃止され、市川駅長着任当時二〇〇余名を数えた職員も一五〇余名に削減された。これが、貨物取扱駅の集約、ヤードの再編成を盛り込んだ、55・10ダイヤ改正である。明けて昭和五十六年の正月には手作りのかど松を改札口に飾った事も今となってはなつかしい。

海外にもさく立川の花

さまざまな分野の方々が生立川を離れ海を越えて、海外で活躍をされている。その中でも、長年多摩川に飛来する鳥たちを撮り続けてきた原田孝一さん(羽衣町)。そして、6月25日に市民会館で行われたチャリティーコンサートで、エコーハン

7月29日にカーネギーに招かれての演奏に続き、今度はホワイトハウスの演奏となった。素晴らしい音色をホワイトハウスのクリスマスにとの招きを頂いてのものであった。当日、太陽の周りに大きな日傘が、祝福しているようであった。また、フランスのパリでは昨年のフランス・オランダに続く2度目の渡欧となった原田孝一さん。今回は、パリのコダックギャラリーからの強い要望によるものであった。今年にはフランス革命200周年を迎える記念すべき年で、その一環として招かれた名譽ある写真展である。ここで行われる写真展は、日本人として初めてのことでもある。



原田孝一さん(羽衣町)

表紙は語る

ほとんど独学に近いのだとおっしゃる。妹がやっていたので、教わりながら、あとは見よう見まねで。モザイク画の基本を学ぶ習作をのぞけば今回の「雪中相合傘」は前川さちのさんにとつて、最初の作品。「ですから、表紙にして下さるのは嬉しいんですけど、それだけにアラが目立つけれど、



前川さちのさんの「雪中相合傘」

真如苑だより

「激動の昭和」が終りを迎え、新しい「平成」の世が幕をあげました。新しい時代がすこやかなれと祈らずにはいられません。厳しい寒さの折りですが、真如苑では今月もまた、皆さまのおこしをお待ち申し上げます。

日時 2月23日(木) 午後2時~4時

御本尊、真如宝物館をはじめとして映画などを盛りだくさんの用意がしてございます。立川市民(成人)に限らせて頂きます。お申し込みは「えくてびあん」コーナーを介して、お申し込みをお願いします。

石塚敬瑠 小川知子 神山清子 陳川理 田中善子 池上麻里 幸次正弘 飯田俊子 (写真) 天野武男 橋本一明 吉田義典 スタッフ26名

「えくてびあん」第55号
平成元年二月一日発行
発行所 えくてびあん編集工房
東京都立川市栄町2-4-11
ファインビルディング3F
電話 〇四二五〇〇〇82
編集人 立井登介
発行人 沖野嘉男
印刷所 南大出版社

えくてびあん

あーとさろん

彫刻は、妙に生々しい。立体の持つ存在感、直に
てのひらに伝わる感触。その手応えにとりつかれた
作り手が刻み込み、溶かし込んだ思いが塊となって、
そこに。在る。からに、違いない。



▲赤川政由さん／銅板造形家（高松町1丁目）
きどりのない、みて心楽くなるような作品を、と。自分が楽しくなければ造らない。



▲古岡ひろさん／彫塑家（錦町1丁目）
節に見出され17才で内弟子に。
油粘土を持ち歩き、僅かな暇にも造り続けてきた。



▲土井勇さん／前染彫刻家（高松町3丁目）
豊富に湧いてくるイメージをどんな方法で現実の作品にするか。苦勞するところだが、また、醍醐味も。



▲塩田明仁さん／ファイアークラフト（栗町）
表現素材として鉄の持つ素朴さ、自由さに魅かれた。作品の繊細な美しさには定評がある。